

**YOSHIHIRO YAMADA**

Oribe Furuta Satarou Ueda Sakusuke Kobori  
Mitsunari Ishida Ieyasu Tokugawa

## 13. 附註



## Hyouge Mono

2024

HYOUGEMONO SINCE 2005  
MORNING KC  
KODANSHA

MORNING  
KC  
2024

ベリタス

# Hyouge Mono 13

**山田芳裕**  
YOSHIHIRO YAMADA

講談社



9784063870244



1929979005436

雜誌 42672-24

ISBN978-4-06-387024-4

C9979 ¥543E (0)

モーニングKC 講談社

定価：本体543円(税別)

Фурута Орибе – военный период междоусобных войн, очарованный чайной церемонией и члестноч.  
Позная широкая мировоззрение через гения Нобунага и духовную глубину через чайного святого Сенно Рикю, он мыслит по дороге к «Хэге-моно».

Отказавшись покончить с собой вслед за смертью своего господина Хидеэси, он отошёл от деятельной жизни и полностью погружился в мир искусства утончённого вкуса. Наконец, появился «Хэге-моно», представляющий собой «Орибе-излобленное». Орибе – уникальный военачальник, а также оплотнившись в общении между спехом Токугава Иэясу и Исиды Мицунари. Жить или умереть, военное дело или искусство утончённого вкуса – вот в чем вопрос.

茶の湯と物欲に魂を奪われた戦国武将・古田織部。

天才・信長から壮大な世界性を。

茶聖・千利休から深遠な精神性を学び、

「へうげもの」への道をひた走る。

秀吉への殉死を拒み、数奇三昧の

識部好みの代名詞たる「ヘウケモノ」がついに誕生

徳川vs.石田の抗争激化にも、風見鶏な乙姫・織部であった。

生か死か、武か教奇か、それが定す定す詔問難だ!!



Oribe Furuta Sakusuke Mitsunari Ieyasu  
Satarou Ueda Kobori Ishida Tokugawa





古織公とよく間違われるのが、  
伊勢松坂城主・古田兵部少輔重勝公です  
御子孫がお持ちの史料によると、  
古織公は関ヶ原の頃、名を「重勝」としており、  
「古田重勝」が二人居ることになって  
混同されるようです  
ちなみに古織公の家紋が丸に地紙(扇)、  
兵部少輔公が丸に三つ引きです

山田芳裕



TEA FOR UNIVERSE, TEA FOR LIFE.

HYOUGEMONO 13

第百三十二席 INKYOLOGIC  
第百三十三席 ORIBECHAMELEON  
第百三十四席 HELP ME  
第百三十五席 みどりの涙  
第百三十六席 Hyouge Mono  
第百三十七席 おかしな七人  
第百三十八席 誠意のメッセンジャー  
第百三十九席 唇と戦慄  
第百四十席 抱きしめたい  
第百四十一席 世紀末 black or white  
第百四十二席 King of Quiet feat. 上杉景勝



cover design  
シマダヒデアキ (Local Support Department)



# へうげモノ

YOSHIHIRO YAMADA

Oribe Furuta Satarou Ueda Sakusuke Kobori  
Mitsunari Ishida Ieyasu Tokugawa

13

HYOUGE MONO COLLECTION No.13



山田芳裕  
YOSHIHIRO YAMADA

講談社

ヒツミ候也、  
へうげモノ也。

織部的野望、飛躍的飛躍。萬歳！

既刊1~13、大快打発売中。

へうげ史上最小。講談社文庫版とりあえず全八服、続々大增刷発売中。

TVアニメ版、毎週木曜日午後11時よりNHK BSプレミアムにて放送中。





へうげモノ13 モーニング KC2024  
387024-4



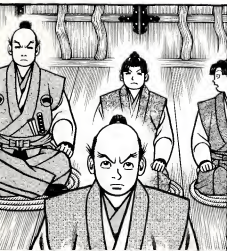
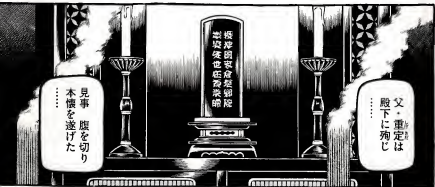
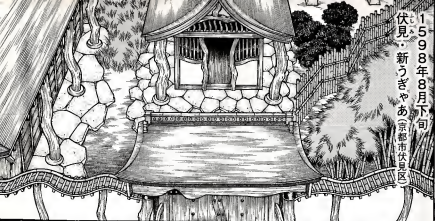
HYOUGE MONO COLLECTION No.13





1598年8月下旬

伏見・新うぎやあ(京都市伏見区)





これより私は  
父の遺領  
摂津国東倉垣  
三千石を継ぎ

よるたおりべしげなり  
古田織部助重然  
として隠居致す

第百三十二席

INKYOLOGIC





父上の領す  
山城国西の岡  
三万五千石は  
……!?



覚悟はしております……

お爺上と共に  
父上が殉死された  
場合も案じて……

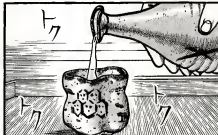


おまえが経ぐ  
のだ 重嗣

弱冠二十歳とい  
えど、これで  
お前も大名……

兄弟で手に手を  
取り合い、しかと  
治めてみせよ

















貴殿は豊臣が  
いかに天下を  
奪ったか  
ご存じですか？



殿下が亡くなられて  
から まだ一月と  
経っておりませぬぞ  
……



泰平を目指さん  
明智様を利用し  
信長公を狙わせ……



すわ<sup>逆</sup>り 逆賊として  
明智様を討ったので  
ござる……



明智様の女<sup>おんな</sup>婿<sup>むすめ</sup>を殺めた  
上田殿も 汚<sup>よご</sup>き謀<sup>はかり</sup>に  
利用されたので  
ござる！

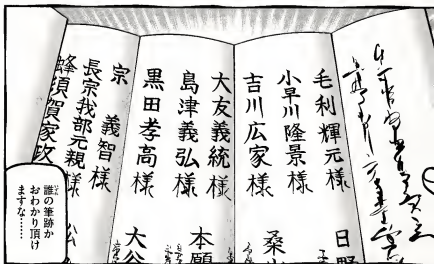




何の確証が……？

天海僧正を始め  
生き証人がおり  
ますれば……

それに……



りてきやうきとくまを  
おとすもつらきまを

毛利輝元様

日照

小早川隆景様

桑

吉川広家様

ふみ

大友義統様

本願

島津義弘様

ふみ

黒田孝高様

大公

宗 義智様

長宗我部元親様

蜂須賀家政

誰の筆跡か  
おわかり頂け  
ますな……



利休居士が  
存命中より……

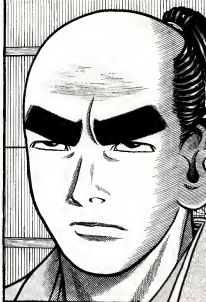
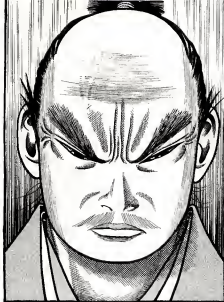
それだけの  
大名が不満を  
抱えていたので  
ござる……

豊臣の不正に  
喘いでおった  
のでござる……











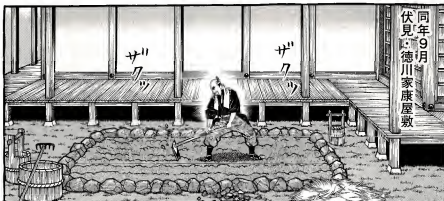






まあ 殿下の死を  
隠さんと 平静を  
装っておるのです  
がな……

では



同年9月  
伏見・徳川家康屋敷









悪しき事を  
した分……

なにか良い事を  
しようなるでな  
……

朝鮮よりの撤兵が  
決まったそう……

まずは五大老  
五奉行で揉めず  
なにより……



やはり徳川様の  
力は絶大……

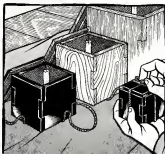
これを持つに  
ふさわしき  
お方かと



油断はならぬ

殿下の死が明・  
朝鮮に知られれば  
何を仕掛けてくるや  
わからぬ

完全に撤兵する  
までは「死」を  
隠し通さねばのう







それに、それがしが胸躍るは「乙」なもの……

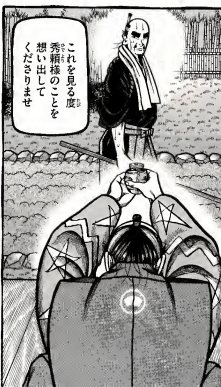
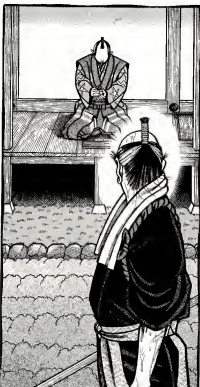
「甲」の最たる物には、目が向きませぬ



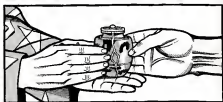
何故「棺槨」を私に……

隠居の身にこの大名物は重すぎます……











その吟味<sup>ぎんみ</sup>役を  
貴殿に任せたい

日の本<sup>ひのくに</sup>が  
茶葉の一切を  
仕切ることと  
なるのだ

なにが貴殿に  
もたらされるか  
承知<sup>しやうち</sup>よの



恐悦<sup>きょうえつ</sup>至極<sup>しごく</sup>に  
ございます

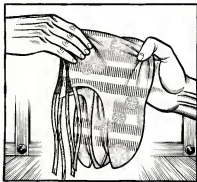
隠居<sup>いんきょ</sup>の身には  
熱い程<sup>あつひ</sup> 懐中<sup>かいちゆう</sup>  
温まろうかと



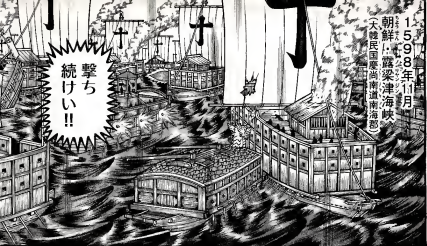












1598年11月  
朝鮮に露梁津海峡  
(大韓民国慶尚南道南海郡)





全速前進!!!

敵船へ  
突撃せい!!!

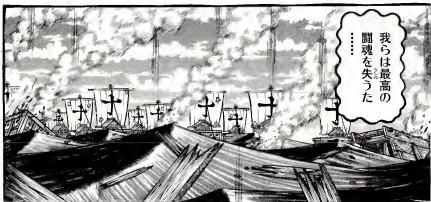
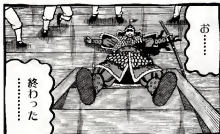
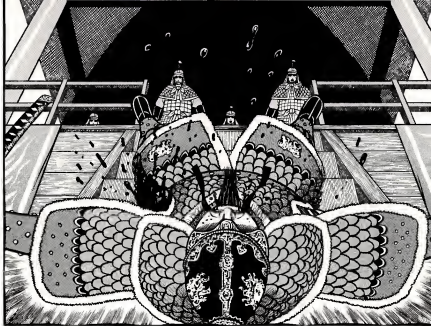
第百三十三席

ORIBECHAMELEON





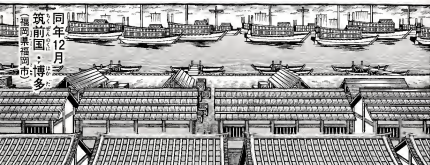






ゴロ

ゴロ



同年12月  
筑前国・博多  
(福岡県福岡市)



伏見城にて  
息を引き取ら  
れた……



この  
石田治部少輔

秀頼様 五大老  
五奉行に代わり  
撤兵せし貴公らに  
申し上げる



太閤殿下は  
八月十八日  
未明……





大儀で  
あった

これにて  
唐入りは  
終に致す



秀頼様なら  
わかるが……

何故その方に  
頼われねば  
ならぬ……



彼の地での勞  
察し申す

春になり  
暖こうなつた  
ら……

茶の湯にて  
頼おう

















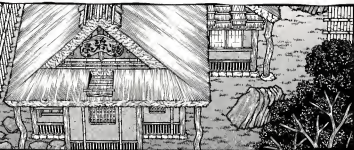


何か……

強力な人脈が  
欲しいところ  
ですな 石田殿



同月  
伏見の新うぎやあ内  
凝碧亭(京都市伏見区)











あの独特な表情  
を持ち出すは  
卑怯ですぞっ!!

銘「佐竹面」  
と……



それにしても  
……

島津様の  
御所丸船にて  
運ばれし この  
高麗茶碗……

宗匠の注文通り  
素晴らしい  
出来にござい  
ます……



徳川様は交易を  
続けたいと仰せ  
ですっ

朝鮮のみ  
ならず  
明国ともっ

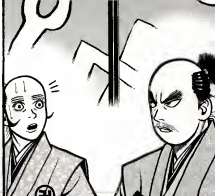


差し当たり二十程  
送られてきたが  
……

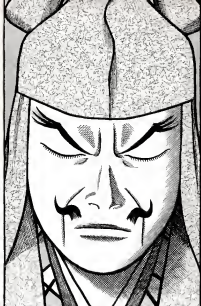
今後 朝鮮との  
交易がどうなる  
か……

これ限りと  
なるやも  
知れぬのう














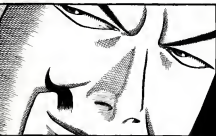




その場その場で  
己が都合の良い方に  
つき……

領地ならぬ  
欲しいものを  
頂くのだ

これが新しき  
乙将おつしょうの生き方  
ぞ



忘れるで  
ないぞ  
上田殿

たとえ敵味方に  
分かれようとな

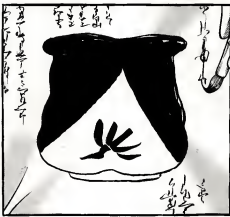










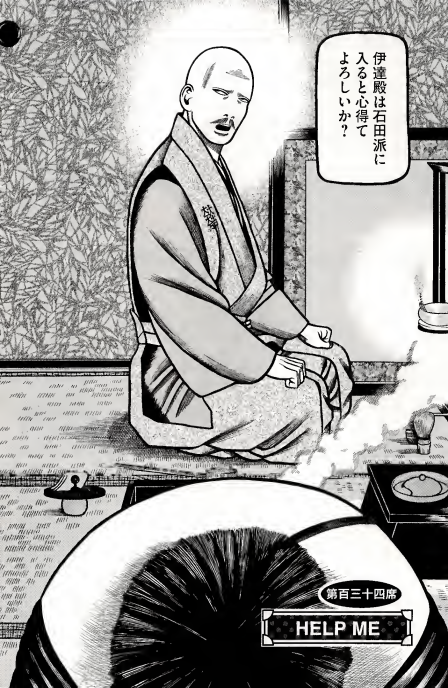




1599年2月  
太坂城下・石田三成屋敷  
(大坂市中央区)







伊達殿は石田派に  
入ると心得て  
よろしいか？

第三百四席

HELP ME

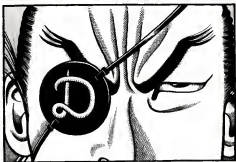
















己が人望の  
無さを痛感して  
おり申す

大寺  
大寺

大寺  
大寺



傷をなめて貰い  
かたじけないが  
.....

己が欠点は今更  
直しようもなし  
.....

大寺  
大寺



何を申される  
.....

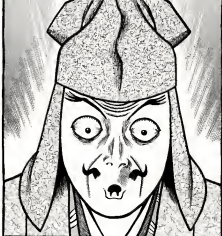
貴殿の良さは  
八方美人や  
二枚舌ではない  
ところ.....

さればこそ  
殿下とて最期まで  
側に置かれたの  
ですぞ.....



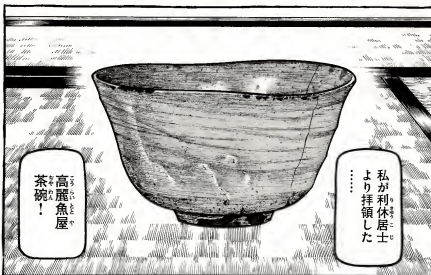






同月 伏見・  
小堀新介屋敷  
(京都市伏見区)

「……  
これは……」



私が利休居士  
より拝領した  
……

高麗魚屋  
茶碗！













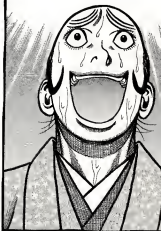




利休居士を  
想い出す……

亡くなられて  
はや八年か……

この変哲なき  
「ふん」とした  
枇杷色の趣を見る  
に……



もうすぐ  
利休居士の命日  
……

今までは 処刑を  
命じた殿下の手前  
叶いませなんだが  
……



あの世で一服  
なさっておると  
良いのう……



今年はひとつ  
宴魂の茶会を  
催しては如何で  
しょう



殿下と  
利休居士とで  
.....

伏見・  
新うぎやあ

ズダッ

ズダッ

来訪されてから  
御膳にも一切  
手をつけず.....

ズダッ

心得た

ガラッ

ズダッ

後はこちらで  
やるゆえ  
人払いを

これは  
織部助殿





















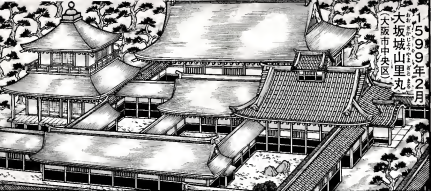
















フシム

第百三十五席

みどりの涙



病が悪化して  
おるようですな

大吉  
太夫

大谷殿

心配ご無用  
石田殿

徳川様より  
良い薬草を  
頂いておるゆえ



殿下の御遺言を  
正確に行うておる  
は私の方

騙されては  
いかぬ

徳川の肚は  
豊臣を滅し  
自らが天下人と  
なることぞ

太夫

徳川のどこが  
良いのだ……





貴殿について  
左様な悪口は  
申さぬ



少なくとも  
徳川様は……



……  
でもっとも



参りま  
しょうかの



貴殿は偉なり  
傲慢になって  
しもうた……

その智慧にて  
政を行うもよいが  
……

いまし  
諸将が面目に  
気を遣われよ













よろしいか  
石田殿……

悪瘡が病の大谷殿が  
口にした茶碗を  
回し喫むは……

誰でも気が  
引け申す……



茶を残さず喫みほす  
なら末座でのうては  
……

覚悟は調った  
ようですな  
石田殿……！



されどそれを  
意に介さず  
一息に喫みほした  
なら……

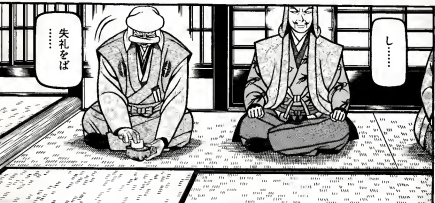
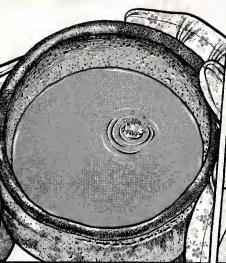
大谷殿とて  
貴殿に  
器の大きさを  
感じましよう

なに……  
喫みほす前に  
私が臆病者となり  
一芝居打ちまする

























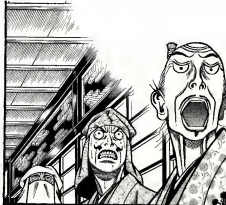












苦笑……

ひ……



大谷殿は!!



必死さゆえの  
一笑が生ずれば  
幸いだったが……

度を越した  
必死さに  
心の笑い袋が  
押し潰され……

そこはかと  
なく憐れに  
……





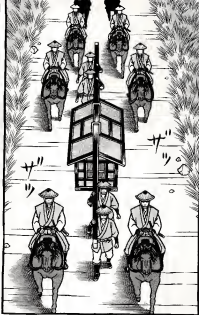














1599年2月

伏見・新うぎやあ内  
凝碧亭(京都市伏見区)

いや……足を  
運んで下さり  
嬉しいございます

毛利輝元様  
に  
小早川秀包様

久々に会えた  
神谷殿も達者で  
なにより……

隠居の身と  
いえど 中々に  
忙しい……

約束せし茶事が  
後回しになる  
ばかり……

新作の茶碗を  
披露しますゆえ  
お許しを





第百三十六席

Hyouge Mono

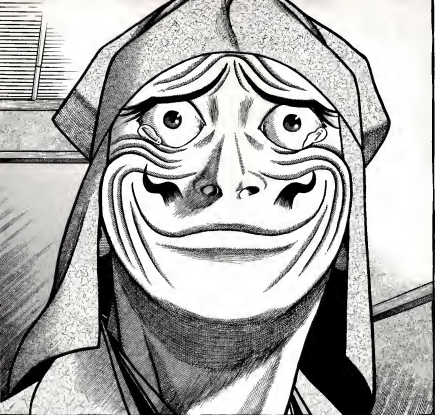












何たるザマ  
よ……

利休居士に諭され  
己が何者かを  
解してはいたもの  
……

総五十六まで  
一言に束ねられ  
なかったとは……



そうか……

俺という男  
は……

ひょうげ者  
だったのだ  
……!!





されどここへきて  
確立すべき  
大きな指針を  
見つけたことに  
感無量……!!







先の戦にて  
朝鮮より陶工を  
連れてきてござる

我が養子秀元も  
やる気に満ちて  
おるゆえ  
何卒助力を



石田三成に  
力を貸したよう  
ですな



大老毛利様の  
お頼みとあれば  
喜んで

それと  
今一つ……



派閥争いの情勢  
のみ知りたいのだ

私心はない

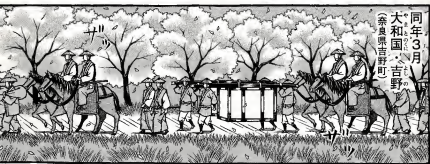
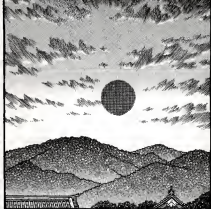
もはや隠しよう  
もありません  
……











同年3月  
大和国・吉野  
(奈良県吉野町)





# 利休妄魂

今度は亡き師を  
偲ぶ茶会に  
よう集まって  
くださった

武將に奈良衆  
京衆と身分も  
様々だが……

どうか左様な  
垣根を越え  
存分に楽しんで  
ください

それが利休居士  
の目指した  
茶の湯ゆえ

なに

身分の上下に  
うるさい石田三成  
が面を寒じ香まば  
……

一層旨う  
なるぞ





お初にお目にかかります  
織部助様



かような臺を  
皆に振舞うて頂き  
真に恐悦……

日頃より奈良衆  
には世話になって  
おるゆえのう



これは挨拶にも  
行かず失礼……

あのわびた  
茶碗が継承され  
利休居士も喜ん  
でおろう



今日は馳走に合わせ  
とっておきの鉢を持参  
しました



亡き長次郎が下で  
器を造っておった  
常慶と申します

太閤様より  
「楽」の印を賜り  
……

今も聚楽第跡にて  
楽焼茶碗屋を  
営んでおりまする









「ミュキン」  
がまた  
あった!!!



私ども楽家  
の祖……

長次郎とその父は  
明国の南方より  
渡来せし者……

そこで焼かれた  
緑釉の器を  
模した物にて



驚いた……

長次郎殿は  
わび器しか  
造らぬものと  
……



この緑釉の鉢は  
貴殿が!!!

いえ

長次郎が作に  
ございますれば





わびた器は  
利休居士の注文  
が賜……

これは長次郎  
自らのために  
……

死を目前に  
故郷に想いを  
馳せ造ったもの  
かと



一切までは  
わかりませぬ



して……

どのように  
造られたのだ  
……!?



長次郎とともに  
造っておった私め  
の父なら 知って  
おりましたが……

昨年他界し  
……

細かき技は  
聞けずじまい  
にて





緑袖をのせるに  
加工せし銅は  
不可欠にござい  
ます



ただ……

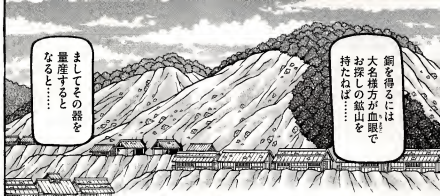


この新兵衛  
察しております  
……

大変にござい  
ますぞ……

その銅を用いて  
美濃物を造るは  
……



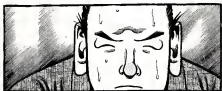


銅を得るには  
大名様方が血眼で  
お探しの鉱山を  
持たねば……

ましてその器を  
量産すると  
なると……



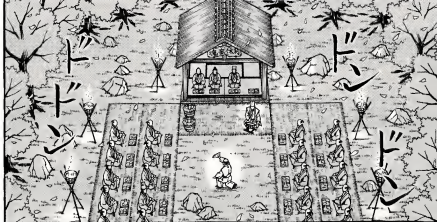
天下一の財力が  
必要となり  
ましよう















されど  
もし……

もしも俺の想い  
描く縁袖の器が  
できたなら……



利休居士を偲ぶ  
つもりが……

とてつもなき  
妄執に捉われて  
しもうた……



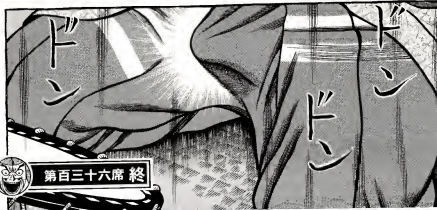
確立すべき  
「ひょうげ」という  
価値にピタリと  
……



い い  
か か  
ん かん  
……

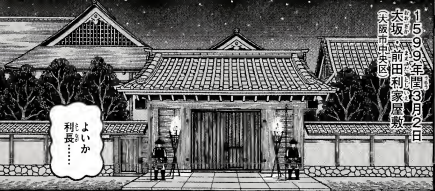
左様な妄執に  
捉われて  
おつたら……

命が幾つ  
あつても  
足りぬわ……





1599年閏3月2日  
大坂・前田利家屋敷  
(大阪市中央区)



父上亡き後  
.....



で.....





徳川家康ほど  
器量のある者は  
おらん……

決して  
世を悪い方へは  
導かぬであらう  
……

第百三十七席

おかしな七人

















全部石田のせい  
……  
ダアロツ

宗匠殺し  
やがって……

許しやせん  
……ちくしょ



ブツ殺して  
くる……

俺あ  
一人でも……

ブツ殺して  
くる……



たわけえ！

細川  
たわけえ！

ようやく  
坊つちやまと  
肚割って  
吞めるわ！



仕損じれば  
我らを処分する  
名分を与え申す!!

さらに我が派の長  
徳川様にも 累を  
及ぼしかねぬ……!!



待て  
待てえ!!

左様な真似は  
石田らの思う  
ツボぞ!!





いや

徳川様とて  
肚では……

我らに早う  
動いて欲しいと  
想うておるやも



我らが動か  
ねば……

先に徳川様が  
やられ申す



石田らが暗殺を  
企てておるは  
確実ぞ

徳川様は  
それを用心し  
伏見の向島へ  
屋敷を移して  
おるゆえ





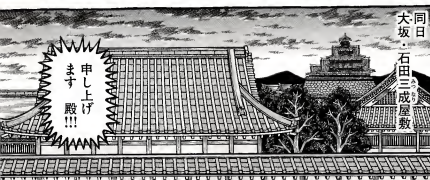
虎はね

獲物に狙いを  
つけたら躊躇なく  
襲うと申してね

すぐに  
秀頼様後見役に  
承認を取るよ！

歴戦の勇士  
前田様なら  
我らが意を汲んで  
くれるね！

















伏見は  
治部少輔丸へ  
急行せん！

堅固な伏見城の  
守りには  
如何な将とて  
攻め込めはせぬ！



め……名分は  
如何様にも  
取り繕えまする！！

今の我らが手勢  
では 七将に立ち  
向かえませぬぞ！！



行くぞ島！

災い転じて  
福とするのだ！



ただちに  
石田派の諸将へ  
知らせい！

守りを固め  
よとな！！

前田様にも  
説明し 秀頼様  
を匿うのだ！！





なんと……



なんと  
雄々しい……

年頭の茶会にて  
何ぞあったか  
……!?

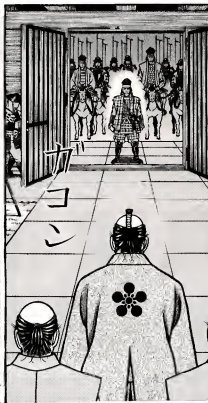




同日夜  
大坂・前田利家屋敷



夜分に  
何事ぞ!?



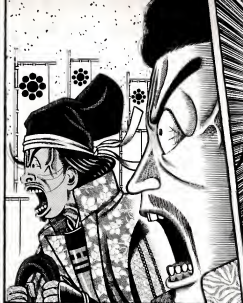
福島・加藤・藤堂  
細川・浅野・黒田  
蜂須賀!!

我ら七将  
石田一派に天誅  
を下す所存!









名分は五大老  
筆頭徳川様が  
よしなにして  
下さる!!!

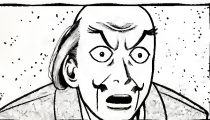
石田だけは  
許すまじ!!!



お……

お悔やみ  
申し……









笑い事では  
ございませぬ  
.....

私共の酒が争いの  
種になったと  
広まれば.....



申し上げます  
殿っ！



酔うた勢いで  
また阿呆な事  
をっ!!

きっと福島殿が  
音頭を取り  
猛牛が如く荒れ  
狂うておるぞっ!!

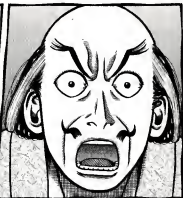




大坂にて  
謀反があり  
伏見に逃れる途中  
との事!!

石田様より  
使者が参り  
是非加勢を頼む  
……と!!

様々な大名衆に  
声をかけておる  
ようです!!



事情のわからぬ  
内は係わらぬ  
とな!!

はっ!

追い返せ!







1599年閏3月3日夜  
大坂・石田三成屋敷(大阪市中央区)



おりませぬ  
福島様!!

石田と側近の  
姿がどこにも  
……!!



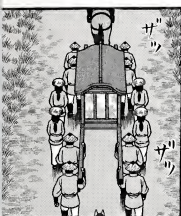
おのれ……

逃げ隠れると  
すれば ただ  
一つよ……



在番の者は  
何と……!!?

詰問に一切  
応じませぬ!!



ザッ

ザッ



伏見へ  
向かう!!!

見つけ次第  
ひっ捕らえい  
!!!



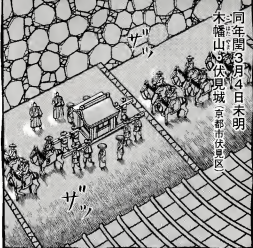


第百三十八席

誠意のメッセンジャー



同年閏3月4日未明  
木幡山・伏見城(京都市伏見区)















いや……

家康として  
秀頼様が  
御意向には  
逆らえませぬ



佐竹殿は我らの  
打倒徳川が企てを  
知らぬゆえ……

事態を率直に  
報せ……

最後は七将に  
有利な仲裁に  
なるやも……



はっ！

島っ！

秀頼様を  
説き伏せ  
七将是罰の令を  
御発し頂く！

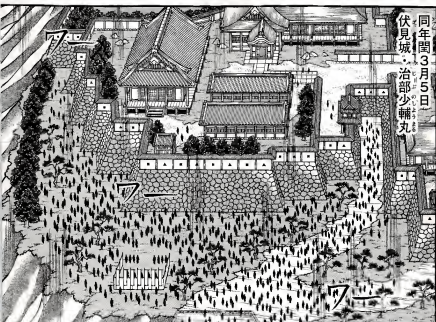


策を練るゆえ  
伏見の石田派が  
諸將をこれへ！

七将との攻防を  
終え次第  
大坂城を我らで  
掌握するのだ！

ヤッ！





同年閏3月5日  
伏見城・治部少輔丸

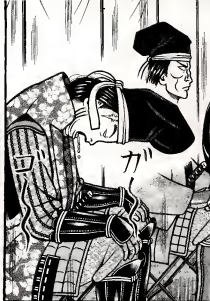


郭を包囲したというに  
出てくる素振り  
すら見せぬ……

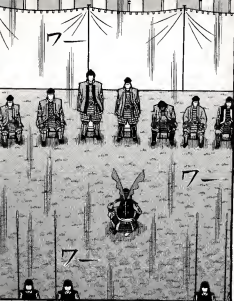
肅々と頭を下げて  
来たなら 切腹  
ぐらいはさせて  
やるものを……

のう  
細川殿……









これ以上の  
深入りは  
禁物ね

悪いようには  
せぬと仰せよ



左様

我らのこれ程  
の憤り……

必ずや  
徳川様の胸に  
届いておる

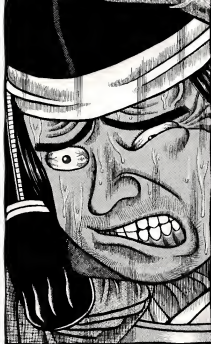


ぬるい!!!

石田の首は  
目前だという  
に……!!!

マッ!!

















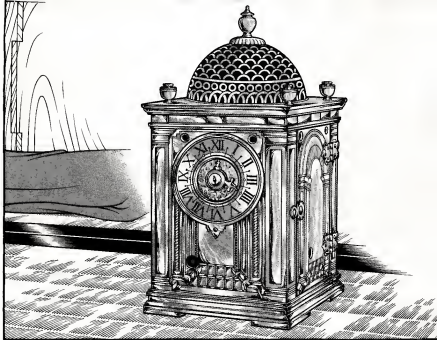




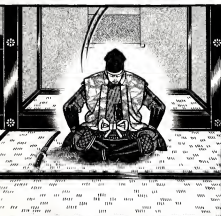




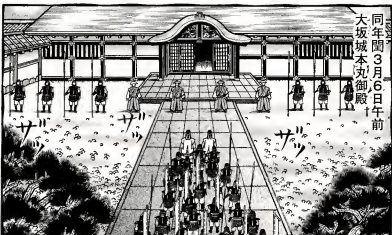
















秀頼様は我ら  
在番衆が警護  
致す!!

貴殿らの  
助けは  
要らぬ!!



待たれい  
増田殿!!  
島殿!!

これより先は  
罷りならぬ!!



それでは足りぬ  
ゆえ 我らが  
来たのだ!!

どきな  
され!!

五奉行が  
命ぞ!!



心配ご無用  
島殿

心置きのう  
戻られよ



しっかりと  
秀頼様を  
御護りするゆえ



我らの手勢も  
加わり……

ガラ

ガラ





カッ カッ カ

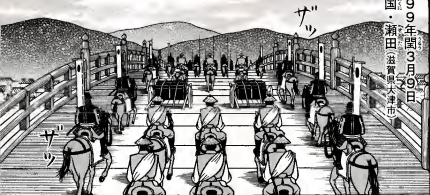
ガラ

ガラ

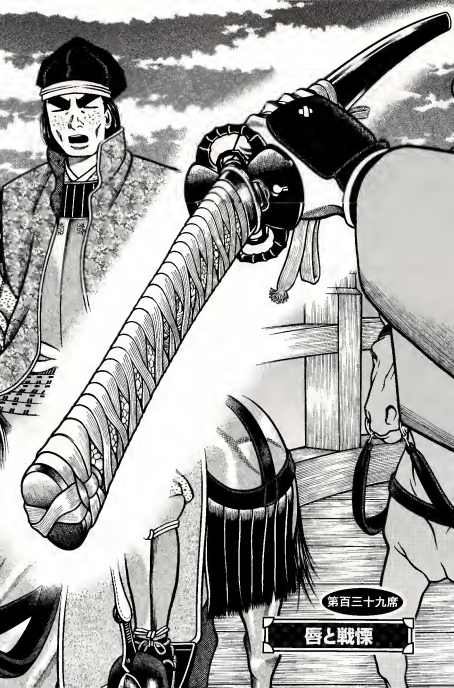




1599年閏3月9日  
近江国・瀬田 滋賀県大津市







第百三十九席

唇と戦慄





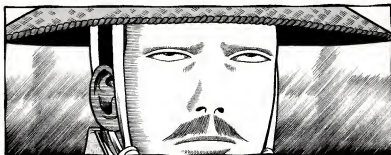
五郎入道が業物  
「正宗」

礼に受け取って  
くだされ



それがし  
徳川様の命に  
従うたまで

何故これ程の  
礼を……？





同年閏3月10日  
太坂城山里丸 大阪市中央区











また鬼面をして  
おりますぞ  
佐竹殿

家臣と和する  
ために 私に  
習うておるのでは  
ござらぬか



徳川様の沙汰とて  
天下を和さしむ  
苦渋の決……

それを心得たなら  
徳川様に釈明に  
行きなされ



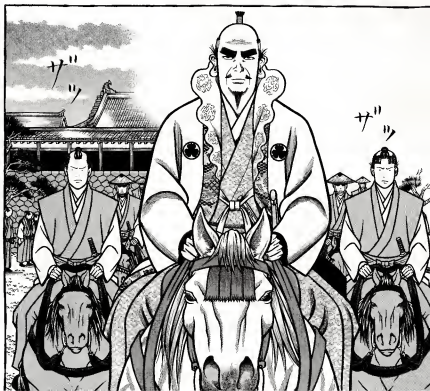
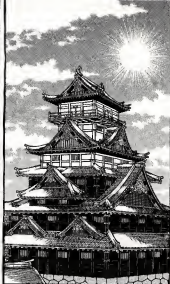
石田殿を助けたは  
愚に頼いるため  
のみ……

七将に怨みはなく  
天下を乱すつもり  
はなかった……と













ついに徳川様が  
本丸へ……

これにて秀頼様が  
大きくなられる  
までは……

徳川様が天下の  
采配を振るわれる  
事となろう……



え……？

宗匠が佐竹殿に  
持たせた手土産を  
えらく気に入られ  
たよう……



それにしても  
徳川様には珍しう  
派手な羽織を……

あれは 亡き  
殿下の物ぞ  
作介殿



まだまだ  
宗匠より  
学ばねばの

世渡りの術も  
……ですね  
上田様



殿下の代行として  
の ご入城を……

これ以上無く  
世に主張せん  
気の利いた心配り  
……





一時は西国大名の  
大半が石田に  
つくかと想われ  
ましたが……



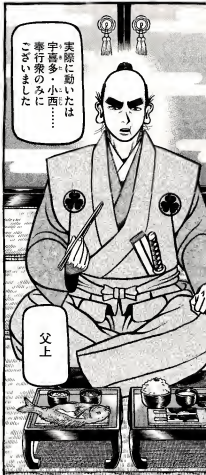
少なし

やはり  
石田を生かして  
良かった



あの男には  
……

もそつと多くの  
大名を巻き込み  
決戦を仕掛けて  
欲しい……



実際に動いたは  
宇喜多・小西……  
奉行衆のみに  
ございました

父上













如何ぞ  
秀忠

養子に出した兄と  
久々に会ってみぬ  
か……？



殿っ

結城秀康様が  
ご入城の挨拶を  
……と



務めがあり  
ますゆえ



血は繋がれど  
別々に育ち  
大さうなれば……

会うのが照れ  
臭うなるもの  
かの 秀康





石田は如何であつた？

よう働いてくれた

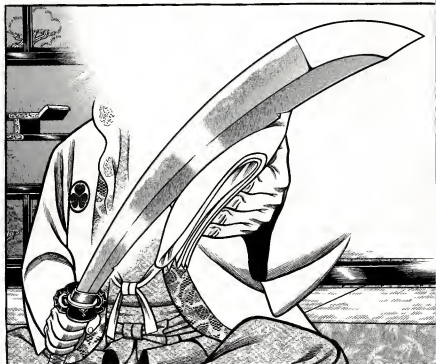


それがしに秀忠様の心の内は……

無事伏見城が主となられ真に目出たく



去り際にこれを頂戴致しました





見事な造り  
よ……

して……

石田がその方に  
授けた意とは  
……？

棟に二カ所の  
切込痕が

あの几帳面な  
石田殿がなぜに  
それを直さずにいた  
か……

何故それがしに  
授けたかは  
いまだ解せませぬ

これは  
「薨れ痕」ぞ

戦いで身を守り  
勝利した証として  
……

古来より  
武家では尊ばれ  
ておるのだ





石田め……

たとえ傷つこうと  
最後は戦に勝とう  
てか……

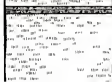
この刀が  
如く……



こちらも兜の緒を  
締め直し 結束を  
強うしてゆかん！

その意気や  
良し！

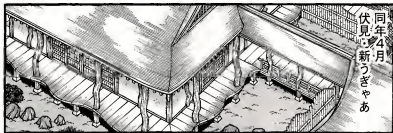
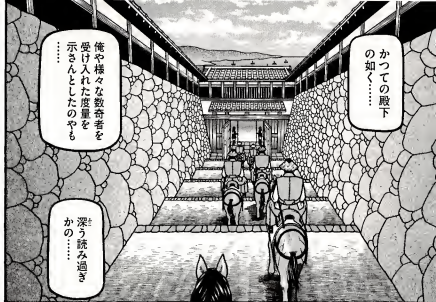
大事にせい  
！















いや……



徳川様よりの便り  
には何と……？

あの羽織は  
喜んでおられ  
ましたが……



銅の鉾山に  
興をそそられて  
おるなら……

隠居の身を利して  
徳川様が領内に  
見に参らぬか  
……と





ハハハ



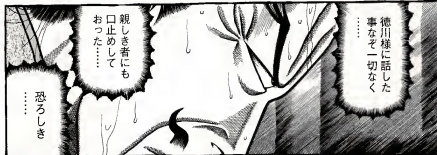
何故……

何故俺の鉢山への  
興を知っておる  
のだ!?



ほう……  
鉢山ですかっ

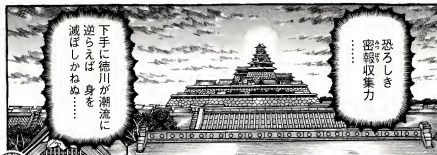
それはまた 年寄り  
には骨の折れそうな  
ご遊興でっ



徳川様に話した  
事なぞ一切なく  
……

親しき者にも  
口止めして  
おった……

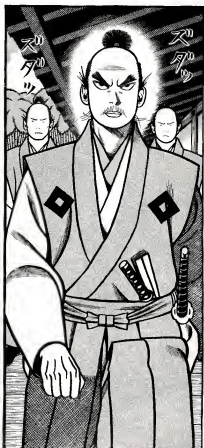
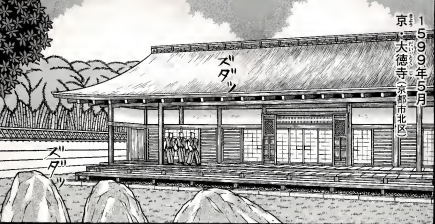
恐ろしき  
……



恐ろしき  
密報<sup>ひみつぎ</sup>収集力  
……

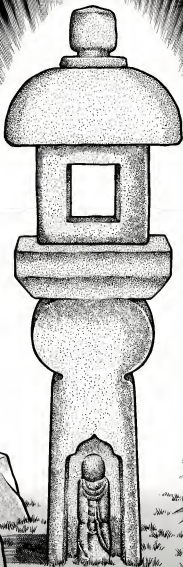
下手に徳川が潮流に  
逆らえば 身を  
滅ぼしかねぬ……







抱きしめたい







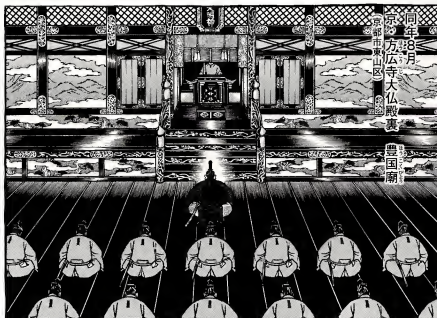
















必ずや  
御期待に沿うて  
みせまする！

この家康  
いえやす



殿下……

天より我らを  
御見守り下さり  
ませ……



それがなんぞの  
趣向では、殿下に  
怒られそうですが

いえいえ  
お気持ちは伝わっ  
とるがね……



莊厳に一周忌を  
やつてもうて

ほんに  
かたじけにやー  
で……









政の事は  
家康様にお頼み  
するでお……

私が育てた  
大名も よーけ  
おりやーすけど  
……

やっぱ皆  
頼りにやー  
でしょう……



京は三本木にある  
殿下の別邸に移るで  
……

幼にやー秀頼坊の  
事も宜しうに



では  
北政所様……

大坂城は  
西の丸を出て  
下さると……？





あそこは殿下が  
あまり使われなかつ  
たこともあり……

少々荒れて  
おると聞いて  
おります



北政所様ほどの  
御方を……

左様な所に  
落ち着かせる訳  
には参りませぬ

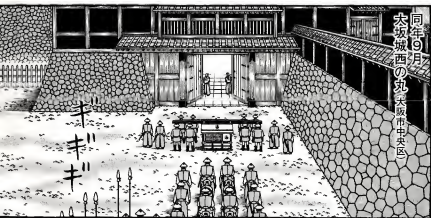


この家康に  
お任せを！

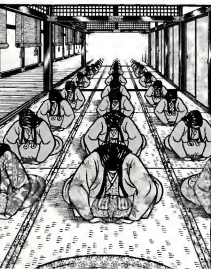
数年の内に  
天下一の……

お好み三昧の  
住まいを造ら  
せて頂きます！





同年9月  
太坂城西の丸(大阪市中央区)









同月大坂  
(大阪市中央区)

藤堂高虎役宅



と……  
徳川様は  
左様に……!!

今年中にも  
西の丸に完成  
させよ……と

天下一の大阪城  
といえど……

二つの天守閣を  
見ることに  
なろうとはのう  
……



して……

何故義父上は  
それがしを  
お呼びに……?



普請は私が頼まれ  
ておるのだが  
……

手伝うては  
くれぬか  
作介殿



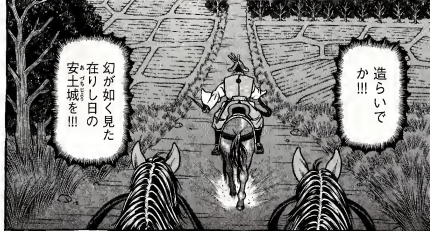
















政に女子を加わらせぬは、殿下よりの御意向

今後一切  
本丸表御殿へ  
足を踏み入れぬで  
頂きたい



わざわざ誓書に  
するとは、貴殿  
らしいのう

わらわが  
聞き入れると  
思うてか？



何卒奥御殿  
のみでお願い  
申し上げる

秀頼様と  
会する折には  
……



聞き入れられ  
ぬなら……



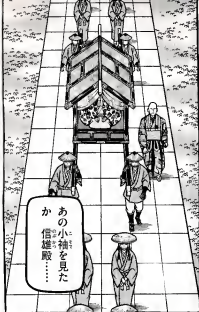
何の権限で  
左様な事を……

わらわは天下人  
たる 秀頼様が  
実母なのだぞ














「良い子良い子」と  
頭を撫でておく  
のじゃ

誰れが勝ったとて  
秀頼を無下には  
できぬ

そうして秀頼が  
大きくなった暁  
には……



心得ました



我らが血を引く  
者に声をかけて  
おきまする

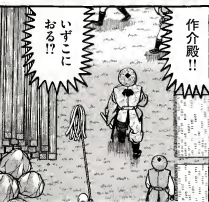
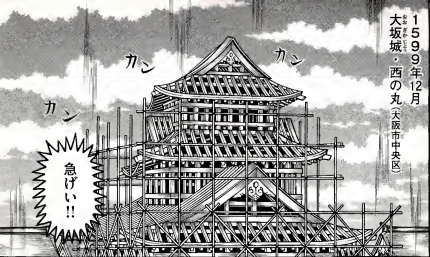


織田に恩顧の  
ある者にも



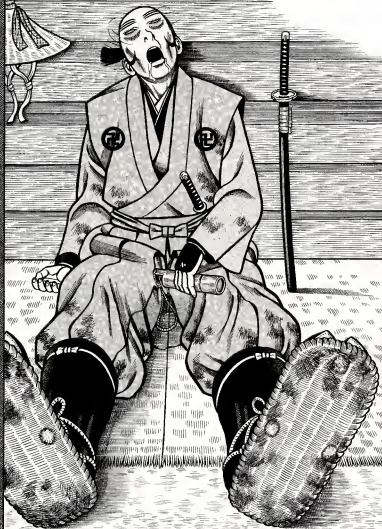
1599年12月

大坂城・西の丸 (大阪市中央区)

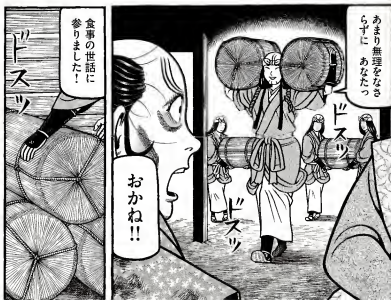




世紀末 black or white

















あくまで  
数奇が事……

今 美濃にて  
緑釉を試して  
おつてな

きな呉エゼ  
宗匠……

数奇の事なら  
いざ知らず……

戦種になる程の  
鉦石を欲しがるとア  
どういう見でエ  
……?

なら徳川に頼み  
なア

仲は良い  
だろオが

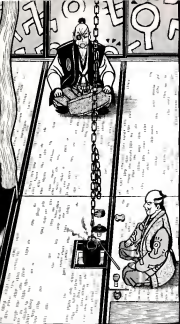
この微妙な  
ご時世に  
借りを作つては  
後が怖い……

なに……  
ただでは  
申さぬ

貴殿の好みにも  
適う新たな器が  
出来次第 数多く  
進呈せん

陸奥に戻らば  
手に入りづらう  
なる極乙器をな





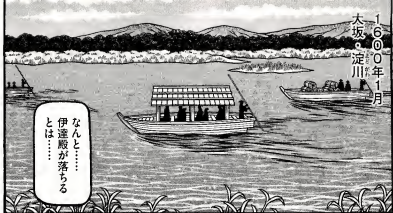
致し方なし  
.....

精錬度は劣れども  
佐竹殿に頼むか  
.....

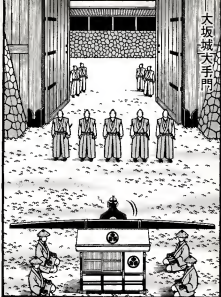
待ちや  
がれ!!



1600年1月  
大坂・淀川







帝への御挨拶  
御苦労に  
ございました

殿が京に  
御出でのうちに  
西の丸天守が  
完成致しました



元旦の儀礼には  
間に合わないんだが  
……

その分  
よう出来て  
おろうな？

はい



大坂城内に徳川が  
天守を造ること  
で石田派を牽制す……

その役割は充分  
果たしておるか



牽制までに  
留めておかねばの  
……

……は？





竊鼠が猫並みに  
大きくなるは  
望むところだが  
……

猫以上となり  
噛みつかれては  
たまらぬゆえ



お待ちしており  
ました 徳川様



あまりの  
反豊臣が行いは  
……

石田派につく者  
を増やしすぎる  
……と？



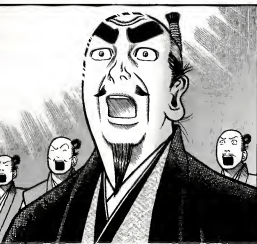
御茶頭殿も  
お出でか

弟子の仕事を  
見届けたく

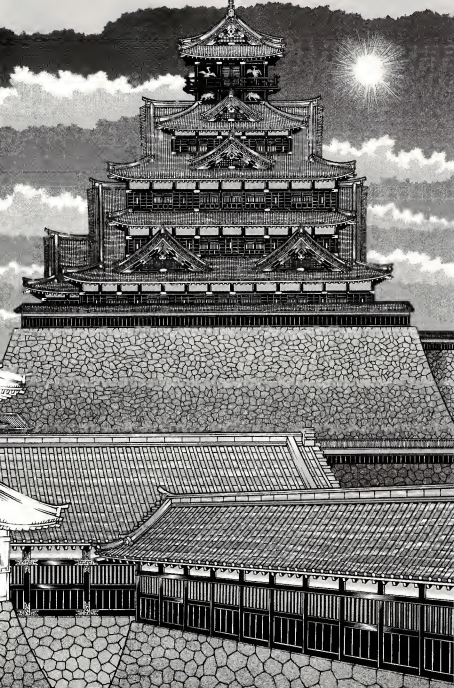


腕によりをかけた  
天守をようやく御目  
にかけられまする

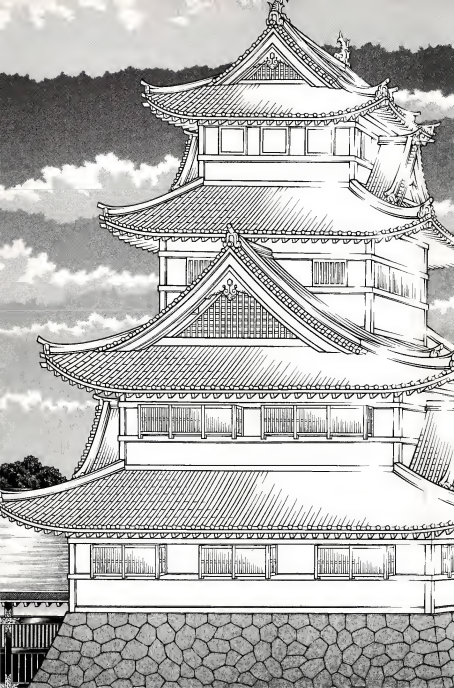
















御指図通り  
四層の天守に  
ございます

極めつけは  
緋白漆喰の壁と  
.....

奈良衆に頼み  
長石にて白う  
焼いた瓦にて



これまでの黒き  
ものから逸脱せし  
この純白天守は  
.....

新しき徳川様の  
政を如実に示す  
と自負しており  
ます！

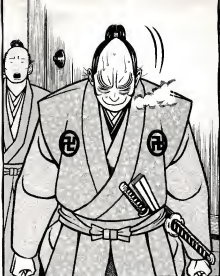


が.....外観も  
藤堂殿が？

いえ.....  
見事な化粧は  
小堀作介が



















靈峰<sup>ふじ</sup>富士が如き  
天下一の懐で  
どうか怒りを  
御笑納されたく

かような時  
太閤様なら  
痛癢一つでお赦し  
下さりました



作介殿は  
.....

小堀家は末代まで  
御恩を忘れませぬ  
.....

戦となれば  
真っ先に出陣し  
身を賭して徳川様を  
護りましょう









か……

かような時に  
何を笑うて  
おられます!!



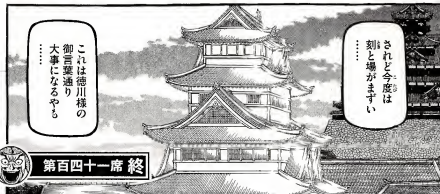
いや……

私と同じ  
怒られように  
思わず……な



以前利休居士は  
こう申された

「過ぎたるは  
なお及ばざるが  
如し」……と

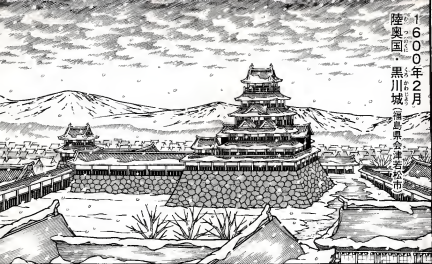


されど今度は  
刻と場がまずい  
……

これは徳川様の  
御言葉通り  
大事になるやも  
……



1600年2月  
陸奥・黒川城  
（福島県会津若松市）







おあきびょう  
大坂城に自らの  
天守閣を建てた  
との事

豊臣への反逆を  
如実に表す  
瓦まで白き天守を

第百四十二席

King of Quiet feat. 上杉景勝

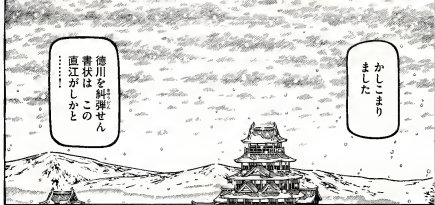






かしこまりました

徳川を糾弾せん書状はこの直江がしかと……



同月  
大坂の毛利輝元屋敷  
(大阪市中央区)

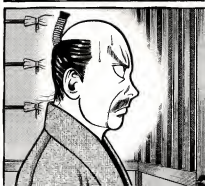
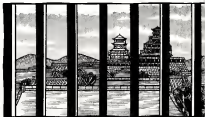
あの白き天守に  
何も感じませぬか  
輝元様



この安国寺恵瓊  
大名となつて  
からも……

毛利家の外交を  
務めて参りました  
が……

徳川が白地な反逆を  
見ても 動じられぬ  
のなら……







白うし過ぎたは  
手違いだと 徳川殿  
より伺うたが……

よう案ずれば  
言い訳も  
甚だしい……



役目に係ること  
金輪際お断り致し  
ます

待て!!



では……

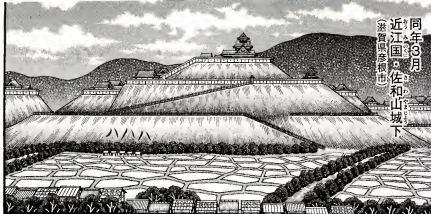


貴殿とは昵懇<sup>じっこん</sup>の  
石田殿に伝えて  
くれ!

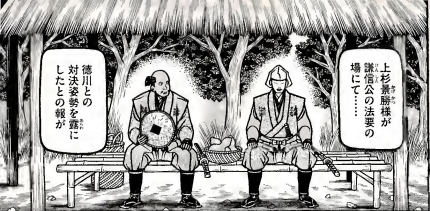
天下の政務へ  
復帰願う……と!



同年3月  
近江国・佐和山城下  
(滋賀県彦根市)



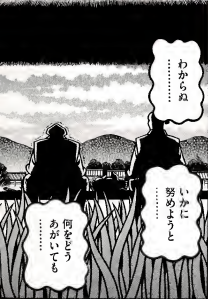




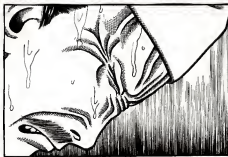
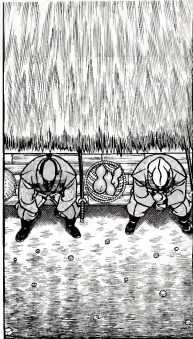




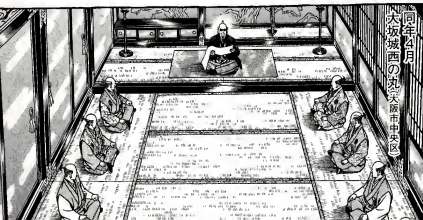
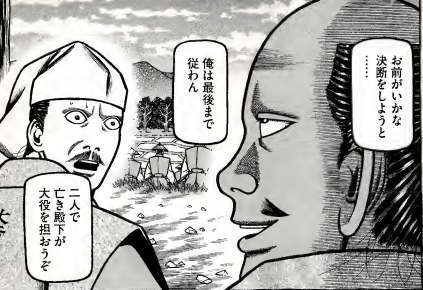
















やはり あの白き  
天守により……

全国の大名が  
急速に石田に  
近付いておるよう  
……

ついには直江兼統  
が徳川を糾弾せし  
その書状まで……

如何致し  
ましようや



これ以上  
待っておつては  
……

石田につく者を  
過剰に増やす  
のみ

今が  
戦時ぞ













同年5月

伏見・新「うぎやあ」  
(京都市伏見区)







息をする前  
に突けい!!

首を斬られ  
ても突けい  
!!!

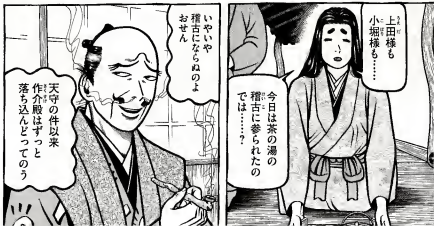


クッククク

どうなさい  
ました  
あなた……

スト

スト



上田様も  
小堀様も……

今日は茶の湯の  
稽古に参られたの  
では……?

いやいや  
稽古にならぬのよ  
おせん

天守の件以来  
作介殿はずっと  
落ち込んでるのう



「数奇なぞ考えとう  
ない」とまで 言い  
出してな……

上田殿に自ら  
槍指南を願ひ出た  
次第……

なぜに槍を  
……

逆境をはねのける  
力と覚悟が欲しい  
なつたのよ……

男とは左様  
なものぞ

されど互いの  
切磋琢磨は  
真に宜しい

作介殿には  
覚悟が……

上田殿には  
創意が足りぬ  
ゆえのう

かつて山上宗二が  
申しておつた……

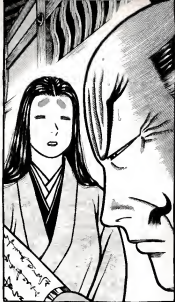
「覚悟 創意  
手柄を有せぬ者は  
真の数奇者と申せぬ」  
……と

あの男の嫌味は  
含蓄あるわい  
……



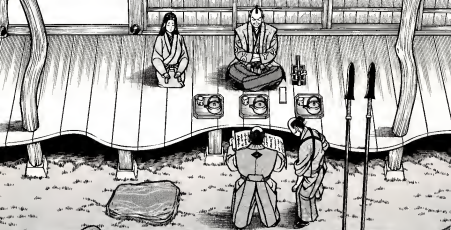








主君・景勝は昨年九月  
会津へ帰国したばかり  
再び上洛となれば  
領内の統治に支障を来す  
当国は雪国につき  
春まで諸事が滞る  
上洛延期をめぐる  
京の風説は事実無根  
昨年末度々  
起請文を提出しておる  
これ以上弁解の必要無し  
歳言せし者を暴き出し  
糾明せよ  
さもなくば徳川こそ  
異心ありと言わざるを得ぬ  
景勝に疑念あらば 取次役・  
榊原康政が会津に来るべし  
上方では今焼茶器・炭取瓢など  
人たらし道具に血道を上げ  
武家の本分を忘れている



珍しい物だと勧められても  
景勝には不似合いにて  
嗜むつもりも無し

もとより政に数奇など不要

上杉家は常時戦に備え  
槍・鉄砲・弓矢を懸命に支度しておる

これぞ武家のあるべき姿

朝鮮が降伏せねば再度出兵など  
虚言も甚だしい

逆心を企てた者が掌を返し  
上洛 縁組 知行を受けたりと

亡き殿下の遺言を無視した  
恥も外聞もなき交流を重ねる有様

景勝はかような輩とは違ふ

徳川が上杉討伐を企て  
天下の黒白をつけんとしておるは明らか

そちらが申す事はあえて肝に銘じ  
すべて手本とする所存

聞けば家康殿が秀忠殿直々に  
会津へ出兵する由

正々堂々決着をつけん  
来るなら来いと申し置く



第十三服終



「へうげもの」第13巻は「モーニング」11年1号、4・5合併号、7号、8号、11号、13号、15号、17号、21号、24号、26号に掲載された作品を収録しました。  
編集部では、この作品に対する皆様のご意見・ご感想をお待ちしております。  
また、「モーニングKC」にまとめてほしい作品がありましたら、編集部までお知らせください。

(あて先)

〒112-8001 東京都文京区音羽2-12-21

講談社 モーニング編集部「モーニングKC」係

なお、お送りいただいたお手紙・おハガキは、ご記入いただいた個人情報を含めて  
著者にお渡しすることがありますので、あらかじめご了承ください。

★この作品はフィクションです。実在の人物、団体名等とは関係ありません。

モーニングKC-2024

## へうげもの 13

2011年7月22日 第1刷発行 (定価はカバーに表示しております。)

著 者	やま だ し、ひろ 山田芳裕 ©Yoshihiro Yamada 2011
発行者	清水保雅
発行所	株式会社 講談社 〒112-8001 東京都文京区音羽2-12-21 電話 編集部 東京 (03) 3945-9155 販売部 東京 (03) 5395-3608 業務部 東京 (03) 5395-3603
印刷所	大日本印刷株式会社
本文製版所	豊田印刷株式会社
製本所	誠和製本株式会社
装 丁	シマダヒデアキ (Local Support Department)

講談社

- 本書のコピー、スキャン、デジタル化等の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。本書を代行業者等の第三者に依頼してスキャンやデジタル化することはたとえ個人や家庭内での利用でも著作権法違反です。
- 所訂本・乱丁本は購入書店名をご明記のうえ、小社業務部までにお送りください。送料小社負担にてお取り替えいたします。なお、この本についてのお問い合わせはモーニング編集部までお願いいたします。



# 加藤景延

## Kagenobu Katou

生年不詳。尾張国生まれ。美濃国土岐郡久尻の窯大將。織部率いる精鋭陶工集団「織部十作」の頭領として、織部の異常な物欲をかなえるド●えもんの存在。決死の朝鮮密航にも同行した。好きな色、ブリリアントレッド。



# 佐竹義宣

## Yoshinobu Satake

1570(元龜元)年、常陸国生まれ。清和源氏の流れを汲む北関東のいがっぺ御曹司。伊達政宗とは従兄弟同士だが犬猿の仲。武勇に優れた猛将にして、織部門下で数奇に精進。好きな色、イエローオーカー。







**Sakusuke  
Kobori**

# 小堀作介

1579(天正七)年、近江国生まれ。幼い頃、明智光秀の白い安土城を目撃し、数奇と普請に魅了される。小田原征伐で織部と対面。少年数奇者として認められて以来、へうげた美学に心酔している。好きな色、スノーホワイト。

**Matabee  
Iwasa**

# 岩佐又兵衛

1578(天正六)年、摂津国生まれ。織部の人生を決めちゃった物豪・荒木村重の子。名絵師・長谷川等伯の紹介で織部に見いだされ、屋敷にマグワイヤな襖絵を描く。朝鮮密航に同行。好きな色、ブラッドオレンジ。



山田芳裕 へうげもの14服  
戦国甲子園「関ヶ原」燃ゆ!(予定)  
'12年1月発売予定にて候



TEA FOR UNIVERSE, TEA FOR LIFE.

# hyouge Mono

13<sup>巻</sup>  
KODANSHA

- Rape Me / Nirvana 1993
- Green Eyes / Seven Nation Army / The White Stripes 2003
- Cannibal Holocaust / Carnal Tongues in Aspic / King Crimson 1973
- I want to hold your hand / The Beatles 1963
- Queen of Quiet feat. 土岐麻子 / Michael Jackson 1991
- Black or White / cro-magnon feat. 土岐麻子 2011
- Message in A Bottle / The Police 197
- Technology / daft punk 2005
- Karma Chameleon / Culture Club 1983

[モーニング公式サイト] <http://morningmanga.com>  
[へうげもの公式ブログ] <http://hyouge.exblog.jp/>  
[へうげもの公式Twitter] [@hyougemono1](#)  
[へうげもの公式Facebookページ] [@へうげもの](#)

2024

HYOUGEMONO SINCE 2005

MORNING KC